

堺の魅力発見！雑貨とカフェめぐり

阪南大学 国際観光学部 清水ゼミ

碓井 里奈 小谷 葉月 島 百合香

富岡 祥子 八田 貴奈

目次

1章 はじめに

1-1 研究の背景

1-2 研究の目的

2章 事前研究

2-1 堺の歴史

2-2 堺観光の現状

2-3 事例研究

3章 実地調査

3-1 記載範囲

3-2 ヒアリング調査

4章 マップ作成

4-1 作成過程

4-2 マップ内容

5章 まとめ

1章 はじめに

1-1 研究の背景

堺市は、面積 150 平方メートル、平成 26 年 1 月現在 84 万人の人口を有する政令指定都市であり、各都市からのアクセスも充実している。南大阪地域の中核的都市として関西の文化・経済を牽引しており、古代には大仙陵古墳をはじめとする百舌鳥古墳群が築造され、中世には海外貿易の拠点として、「自由・自治都市」を形成し、日本の経済や文化の中心地として繁栄してきた。また、堺市には刃物、線香などといった誇るべき数々の伝統産業も盛んである。このように、堺市は歴史と文化の街であり、現代でも多くの人々が堺市に対してこのようなイメージを持っているのであろう。

この研究を始めるにあたり、堺市役所観光課の丸澤氏へ堺観光についてのヒアリング調査を行った。その結果、「アクセスの良さを活かして、周辺都市からもっと観光客を集めたい」「特に、若い女性に堺市へ来てもらいたい」などの意見をいただいた。また、丸澤氏と相談した結果、若い世代へ向けた堺市の新たな観光マップを作りたい、という話になった。実際に現在堺市で企画されている堺観光に関するホームページやまちあるきツアーなどの多くは、堺市の歴史や文化を特集したものが多く、若者には興味を持ち辛い内容であると言えるかもしれない。

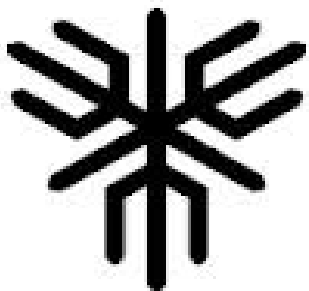
自分たちと同世代の女性が興味を持ってくれそうなテーマを考えたとき、「カフェ」「雑貨」といったキーワードが浮かんだ。そこで、若者向けのマップを作成し、その中で堺市内に点在するカフェや雑貨店などの情報を発信しようと考えた。

1-2 研究の目的

堺市に若い世代、特に女性の観光客を呼び込むため、堺市内に点在する、まだあまり有名ではないが、これからの堺観光において新たな観光資源になりそうな飲食店や雑貨店、体験型イベントなどの情報を、現地でのフィールドワークを主としたヒアリング調査で収集する。それらの情報をまとめ、1枚の観光マップ及び、店舗の情報を記載した観光ガイド冊子を作成し、若年層に向けて堺観光における新たな魅力を発信したいと思う。

2章 事前研究

2-1 堺の歴史



堺市の歴史は旧石器時代に遡る。この頃より堺市周辺に人々が定住し始めた。4～5世紀には大和朝廷が成立し、100数基から成る百舌鳥古墳群が作られた。

平安時代に、旧摂津国、旧和泉国、旧河内国の三国の「境(さかい)」に位置しているまちであったことが「堺」の地名の由来となっている。堺市の市章は、この由来を受けて「市」の字を3つ組み合わせたものである。

戦国時代になると、海外貿易の中心地として黄金の時代を迎えることとなる。当時、堺は世界でも珍しかった環濠都市であり、「自由・自治都市」として繁栄した。

明治以降になると、鉄道網の発展、臨海工業地帯や泉北ニュータウンの着工などによって急速に近代化が進んだ。平成に入り、1989年には、市制100周年を迎えた。2005年の美原町との合併を経て、その翌年に政令指定都市となった。

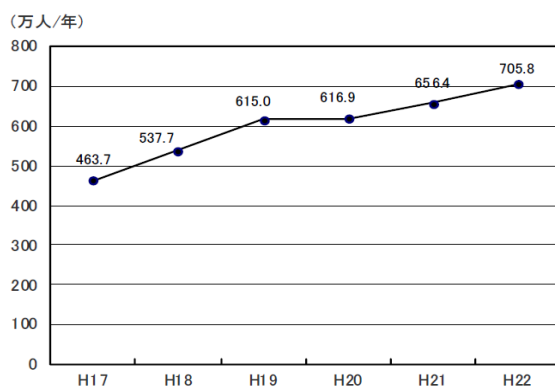
また、市民の木は柳、市の花木はツツジ、市の花はハナショウブ、市の鳥はモズである。海外には、姉妹・友好都市もあり、現在、アメリカのバークレー市、中国の連雲港市、ニュージーランドのウェリントン市と提携している。

(出典：堺観光ガイド「堺の歴史」〈http://www.sakai-tcb.or.jp/about_sakai/index.html〉)

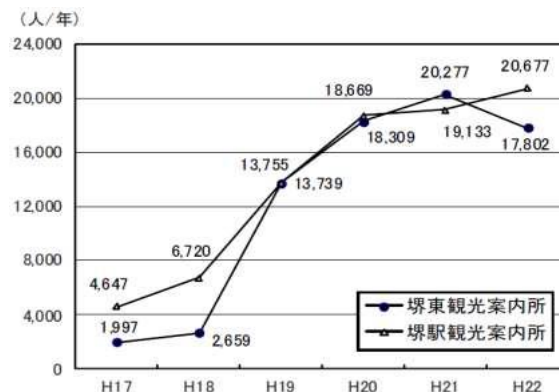
堺市 HP「堺市プロフィール」

(<http://www.city.sakai.lg.jp/shisei/gaiyo/profile/index.html>)

2-2 堺観光の現状



(図1) 観光ビジター数の推移



(図2) 観光案内所への来訪者数

資料：堺市ビジター実態調査（堺都心のまちづくりプランより）

堺市は平成12年に経済局商工部に交流観光課を設置し、観光施策を実施する体制を整え、平成17年には観光部を設置し、本格的に観光振興に取り組みはじめた。平成18年には「堺市文化観光再生戦略プラン」に基づき、「文化財特別公開事業」、「伝統行事PR事業」、「産業観光推進事業」、「観光ネットワーク推進事業」などの観光推進計画を進めてきた。その結果、上の図から見て取れるように、堺市を訪れる観光客数は観光部が設置された平成17年から平成22年の間に、約250万人増加している。

現在、堺市を訪れる観光客は、大阪府内を中心に近畿圏からが主体であり、更なる集客促進は勿論、首都圏や新幹線の路線を拡大することでアクセスをよりよくし、国内に向けて堺市の魅力を広くプロモーションすることと、海外からのインバウンド促進の方策を検討しなければならないとしている。

(出典：堺市 HP「都心の動向」

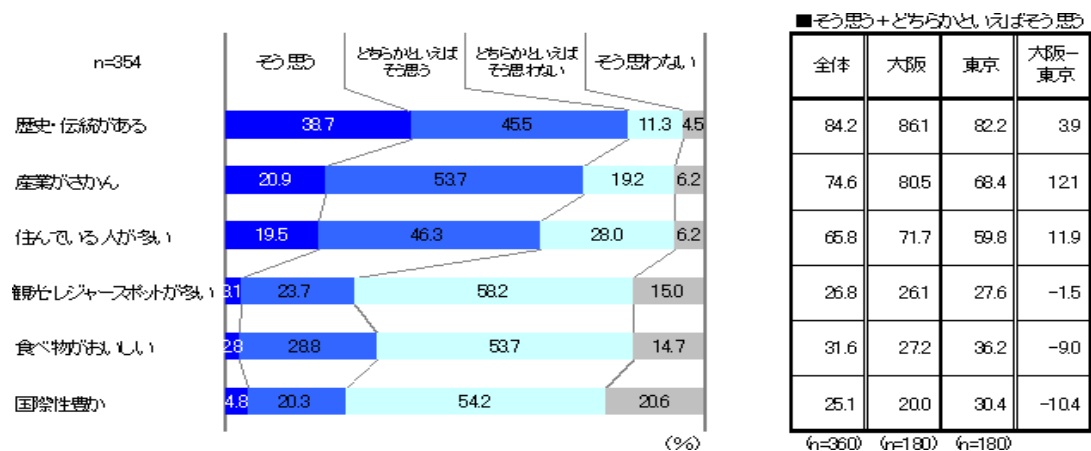
(http://www.city.sakai.lg.jp/shisei/toshi/kotsuseisaku/kento/toshinkoutsu/index.files/toshinkoutsu_kaigi_02_04.pdf)

また、堺市は関西の空の玄関口である関西国際空港から鉄道・車いづれを利用して30分の位置にあり、近畿主要都市・観光地ともアクセスが良く訪れやすいことを観光面での強みとしている。

- (例) [堺～難波]：電車で約10分、[堺市～新大阪]：電車で約40分、
- [堺～USJ]：高速で約15分、[堺～大阪城]：自動車で約30分（高速利用）
- [堺～京都]：電車で約40分～約75分
- [堺～神戸]：電車で約30分～約55分

そして仁徳天皇陵古墳をはじめとする百舌鳥古墳群、茶の湯・千利休、堺打刃物、自転車などものづくりの技術等、多種多様な観光資源が存在している。

2-3 堺市におけるイメージ



(図3) 堺市役所 HP 参照

堺市役所が行った堺市のイメージ調査の結果、上の図 3 のような結果となった。図を見てわかるように、堺市には、「歴史」や「産業」といったイメージが強い。反対に、「観光」「食べ物」というようなイメージが弱いことがわかる。また、調査を行った東京と大阪で、年齢が高くなるほど、堺市に対して「歴史」「産業」のイメージが強く、全体的に若年層からのポイントは少ないという結果になっているようだ。現に、堺観光の魅力といえば、大仙陵古墳（仁徳天皇陵）をはじめとする百舌鳥古墳群、伝統産業、寺社仏閣、歴史的な人物のゆかりの地などであり、いずれも中高年層に認知度が高く、若年層には認知やイメージが希薄なものが多いのではないだろうか。

また、行政が行っている堺市の PR が外部向けではなく、内部向けではないかという指摘があったように、外部に向けての知名度、認知度を向上させるための取り組みが十分ではないことも堺観光における一つの課題ではないだろうか。

2-4 事例研究

新たな堺市の観光マップを作成するにあたり、堺市に関する情報を記載した既存の観光マップを分析した。

いくつかの観光マップが存在したが、そのほとんどは百舌鳥古墳群を中心とした、寺社仏閣や千利休など、堺市の歴史に関連する資源の情報が目立った。また、堺観光ボランティア協会が行っている観光ガイドツアーも存在したが、開催されている 4 つのコースはいずれも歴史資源をメインとして扱っており、ガイドツアーに参加している客層を見ると、そのほとんどを中高年層の男女が占めている。

以上のことから、やはり堺市観光の現状は、中高年層に馴染みのあるものという結果になっていると言える。

3章 現地調査

3-1 マップ記載範囲

観光マップの作成にあたり、マップに記載する地域の範囲を定めた。大都市からのアクセスが良い堺市だが、その中でも南海電鉄本線・高野線、JR 阪和線、阪堺電車と、多くの沿線が集中している堺市街地（南海本線 堺駅～南海高野線 三国ヶ丘駅 間）に限定して調査することにした。

3-2 ヒアリング調査

フィールドワーク、情報誌、インターネットの情報より、事前に調査した店舗の中から、堺らしさがある、または、堺への思いが伝わってくるような店舗を抜粋し、実際にヒアリング調査を行った。ヒアリング調査の際には、ご協力頂いた合計 18 店舗には今回の研究内容と目的を説明し、マップとガイド冊子に店舗情報を掲載してもよいか確認し、許可を頂いた。店舗は以下の通りである。

- ・ニコノパン（パン屋）
- ・パンゲア（喫茶店）
- ・ひだり堂（インテリア・工房）
- ・紙カフェ（カフェ・雑貨店）
- ・なごみ堂（クッキー・漬物専門店）
- ・サザンフィールド（ガーデニング専門店）
- ・パティスリースリーズ（ケーキ店）
- ・café 伊太利庵（BAR・喫茶店）
- ・スローライフ（パン教室・販売）
- ・堺カレー（テイクアウト専用カレー店）
- ・琥珀茶菓（焼き菓子・中国茶専門店）
- ・ケセラ・セラ（喫茶店）
- ・choco.のアトリエ（アート雑貨・アトリエ）
- ・世界パン（パン屋）
- ・本家小島屋（和菓子店）
- ・oogi（陶器・カフェ専門店）
- ・MORE（バイク・古着店）



ヒアリング調査では、店舗の魅力を伝えられるよう、店舗のコンセプト、おすすめの商品、店舗スタッフの堺市への思い入れについて伺った。

4章 マップ作成

4-1 作成過程

マップは手描きで作成し、店舗の位置が一目で分かるように文字を大きめに書き、イラストを載せた。また、道を省略して、全体的にすっきりとしてカラフルなデザインの地図にすることで、若い女性にも気軽に興味を持ってもらえるよう工夫した。

マップとは別に制作したガイド冊子には、店舗の住所・電話番号・営業日時はもちろん、ヒアリング結果で得た情報をまとめた。また、実際に調査に行って分かった店舗スタッフの人柄や店舗の雰囲気についてなど、個人的な感想を組み込むことで、より読者に魅力を伝えることができ、興味をもってもらえるような文章内容を心がけた。

それぞれの店舗は最寄りの駅ごとに堺駅～七道エリア、大小寺～寺地町エリア、堺東～三国ヶ丘エリアの3つに分類し、それぞれのエリアごとに大阪の主要ターミナルである天王寺・大阪駅交通からのアクセス時間と方法も掲載した。

また、余ったスペースでその土地にちなんだ堺市の歴史や、有名な観光資源を紹介することで、店を巡りながら、若年層にはあまり認知されていない堺の歴史資源を知るきっかけになってほしいと考えた。

4-2 マップ・ガイド内容



図 1



図 2



図 3



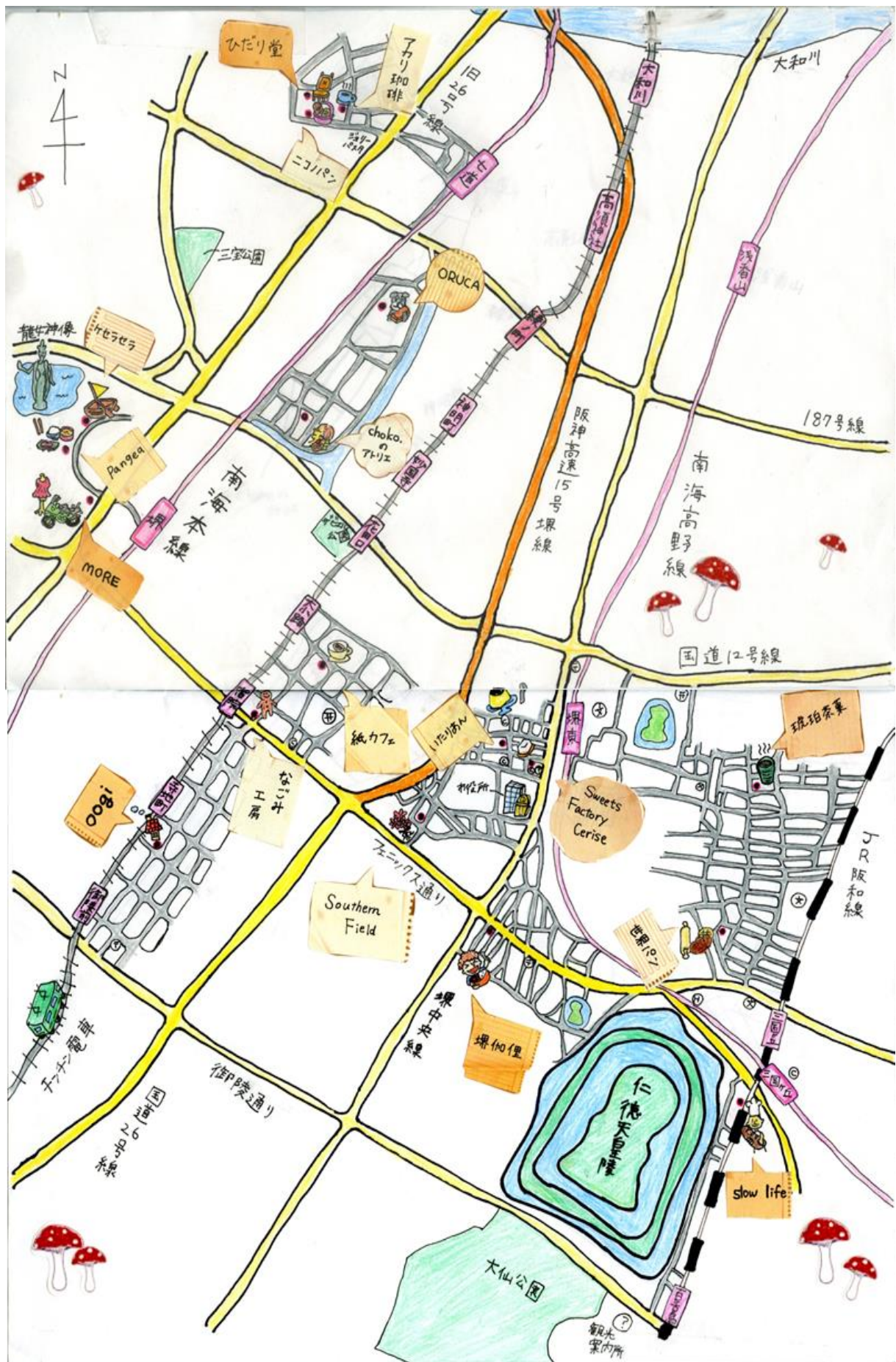
図 4

上の図は、実際に作成したガイド冊子の一部（堺駅～七道エリア）である。

図 1, 2, 3 は、実際にガイド内容として作成したページであり、1 ページで 2 店舗を掲載している。

図 4 では、店舗の最寄り駅である堺駅と、七道駅を一つのエリアとし、この周辺で有名な堺旧港観光市場や、与謝野晶子生家跡を紹介し、メインの店舗と一緒に堺の観光資源や歴史的資源をついでに訪れやすいよう紹介した。

次ページに、実際に作成したマップを掲載する。



5章 まとめ

今回の研究を通して、堺市役所観光課の丸澤さんにまずお話を伺うことから始まり、テーマを決定するにあたって、堺市は、まちあるきのツアーを企画していたり、歴史遺産をめぐるマップを作成していたりと、大阪府のなかでも観光に力を入れていこうという活気のある都市であると感じた。実際、堺市には大仙陵古墳などをはじめとした歴史的な資源や、包丁や自転車などものづくりの文化があり、これを利用して観光振興しようという試みが多くみられ、興味をそそられたが、実際に堺のまちを歩いてみると、堺市には個性的なお店が多くあることが分かった。そして、マップを作成するため、それぞれの店舗にヒアリング調査を行うことで、その店舗ならではのこだわりや経営する方の人柄をより深く感じることができ、堺市内ではもちろん、堺市の外からでも店舗を目当てにやってくる価値があるのではないかという考えに至った。また、ヒアリング中にお話しさせて頂いて、堺市民の方も、もっと堺に観光客が来てほしいと強く思い、地元で愛着がある方が多いと感じた。

この観光マップを機に、カフェや雑貨店をはじめとした堺市の店舗に興味を持ち、堺市を訪れることで、堺市が活性化するきっかけになってほしいと思う。